人生最後のお別れの場を考える

―斎場整備基本構想がまとまりました―

供用開始から31年が経過した長岡斎場。火葬設備や施設の老朽化をはじめ、駐車場の慢性的な不足、待合室の収容能力不足など、多くの課題を抱えています。この斎場の今後のあり方について、長期計画の策定とともに、整備の方向性を導き出すための「斎場整備基本構想」がまとまりました。

問 市役所環境政策課
☎ 0558(76)8002

◆現長岡斎場の延命化◆

各部屋の規模が小さいなどの機能面、耐震問題などの構造面から問題を抱えている現長岡斎場。延命化させるためには、両方の課題を解決する必要があります。

機能面の課題

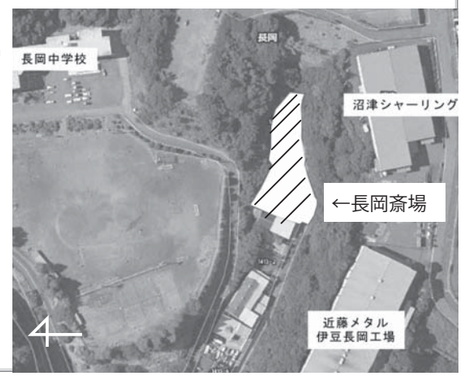
ソフト面では、受け入れ時間の見直しや、会葬者数・乗り入れ車数の制限などの方法があります。しかし、現在の葬祭スタイルを考慮すると現実的ではありません。

ハード面として建物の大規模改修で対応する方法もありますが、不足している機能を満たすためには、建物の増築場所と駐車場の増設場所が必要となり、現敷地では難しい状況にあります。

構造面の課題

耐震強度を上げることが求められます。また、火葬炉設備も大規模改修を要し、集塵装置を設置するスペースも確保できない状況です。

◆現敷地での建て替え◆



三方を山に囲まれた谷内に立地しており、隣接して長岡中学校があります。現状でも駐車場が不足しており、狭隘な敷地となっています。

現在の長岡斎場の敷地面積は、2,130㎡しかなく、現地で建て替えを行うことは、非常に困難な状態です。現地建て替えの場合は、現斎場を稼働しながらの工事となるため、火葬業務に支障をきたすことになります。

基本構想を基に市民の皆さんの意見などを聞きながら整備計画の方向性を決定

基本構想では、現在の長岡斎場での建て替えを含め新たな火葬場の整備に向けて、あらゆる方向からの調査、検討を行いました。まとまった構想を基に、今後、市としては、利用者である市民からの意見や要望などを聞きながら、整備計画の方向性である『基本方針』を決定していくことになります。

火葬場の今後のあり方を導き出すために、長岡斎場の“今”を知るための基本構想

基本構想の概要

- ○長岡斎場の火葬状況調査と課題などを整理
- ○市の将来人口から死亡者数を予測
- ○斎場整備に係る必要機能および火葬炉数の規模などを整理
- ○斎場整備計画の方向性（延命化、建て替え、伊豆市火葬場との共同利用）を検討
- ○斎場整備に関する市民向け講演会を開催し、長岡斎場の課題や「新たな火葬場」のあり方についての講演と意見交換を実施

20年後には、現在の1.5倍

将来人口から死亡者数を予測

国立社会保障・人口問題研究所の人口推計データおよび5年間の生存率を基にして、死亡者数の推計をしています。

平成25年度の市内の火葬数は519人です。推計では平成37年に705人、20年後の平成47年には728人と、現在の約1.5倍の火葬が行われると推計しました。

3基の火葬炉が必要と試算

火葬場の機能と規模などの試算

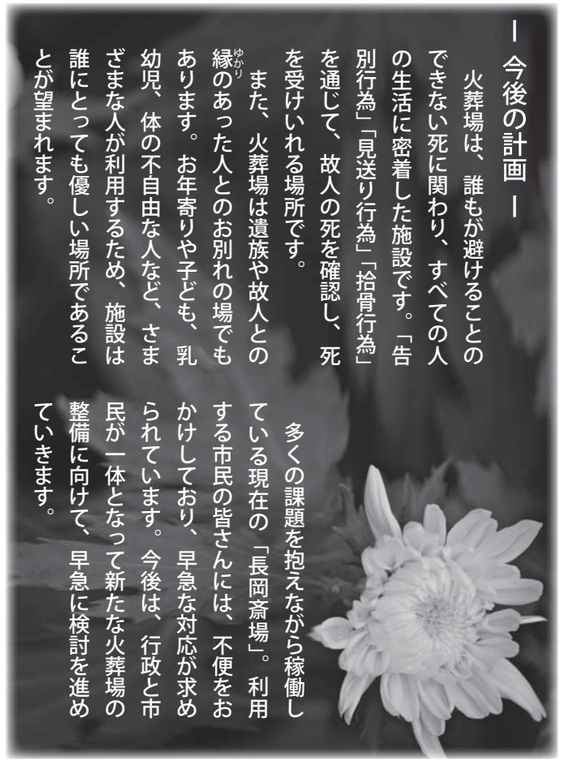
将来死亡者数の予測から、火葬炉は3基の整備が必要と試算。また、火葬の受付は希望が多い時間帯でも可能とするため、1日7件の受付ができるよう整備が必要と試算しました。

なお、そのためには建物面積を約2千㎡程度、駐車場や環境緑地を含めて、1万8千㎡から2万㎡程度の敷地面積を必要とします。

― 今後の計画 ―

火葬場は、誰もが避けることのできない死に関わり、すべての人の生活に密着した施設です。「告別行為」「見送り行為」「拾骨行為」を通じて、故人の死を確認し、死を受けいれる場所です。

また、火葬場は遺族や故人との縁（ゆかり）のあった人とのお別れの場でもあります。お年寄りや子ども、乳幼児、体の不自由な人など、さまざまな人が利用するため、施設は誰にとっても優しい場所であることが望まれます。



多くの課題を抱えながら稼働している現在の「長岡斎場」。利用する市民の皆さんには、不便をおかけしており、早急な対応が求められています。今後は、行政と市民が一体となって新たな火葬場の整備に向けて、早急に検討を進めていきます。